

春季大会

5月20日、帝国ホテルにおいて、2016年度春季大会が開催されました。全国各地から600名を超える会員の皆様が集まり、盛況な大会となりました。



FUJITSUファミリ会会長
下條 泰利 氏



富士通(株) 代表取締役社長
田中 達也 氏



歴史コメンテーター/
一般財団法人日本普及機構代表理事
金谷 俊一郎 氏

下條会長の挨拶で幕を開けた春季大会。2016年度の活動方針である「夢限大～新たなる挑戦～」について、会員同士が様々な夢を語り合い、会社や業界の壁を乗り越え、お互いに前進するという思いが込められていることを、また、活動については、全国で行われる行事に積極的に参加し、有効的に活用していただきたいと語られました。

富士通(株)田中社長は、グローバル化の中で、日本の技術のみならず、サービス・おもてなしの素晴らしさなどを、あらためて世界に発信、認識させていきたい、そのために限界をつくらずにチャレンジしていくと述べられました。

式典に続いて、多彩な肩書きで活躍される金谷俊一郎氏による記念講演「幕末の偉人たちに学ぶ経営戦略」が行われました。

金谷氏の講演の余韻が冷めないうちに始まった懇親会にも多数の方が参加され、大盛況のうちに2016年度の春季大会の幕が下ろされました。

懇親会



乾杯風景/挨拶
FUJITSUファミリ会
副会長
西崎 宏 氏



挨拶
富士通(株)
執行役員専務
小野 弘之 氏



中締め
FUJITSU
ファミリ会
北陸支部長
三谷 忠照 氏



懇親会風景

● 2016年度 FUJITSUファミリ会 春季大会	2	● 豊かに生きる誌上セミナー	14
● ICT基礎講座Close-Up	6	HUMAN HUMAN	
● トップは語る	10	特定非営利活動法人STAND 伊藤 数子 氏	
● 講演録	12	● Family's Information	15
● 歴史コメンテーター/一般財団法人日本普及機構代表理事 金谷 俊一郎 氏		● 支部見聞録(中国支部)	18
		From 山口	

活動方針

「夢限大」

～新たなる挑戦～

「夢限大=ゆめ むげんだい」と読みます。

夢は無限大です。

ファミリ会の活動を通して、会員同士でいろんな夢を語り合い、知恵をはたらかせ、夢の実現に向かって一丸となって明日という未来を切り拓いて欲しいという思いを込めています。

日本最大の ICT ユーザー会として、
新たな IoT 時代に向けた会員企業の課題解決や
ビジネスの成長に貢献すると共に、その基盤となる人財育成を支援する

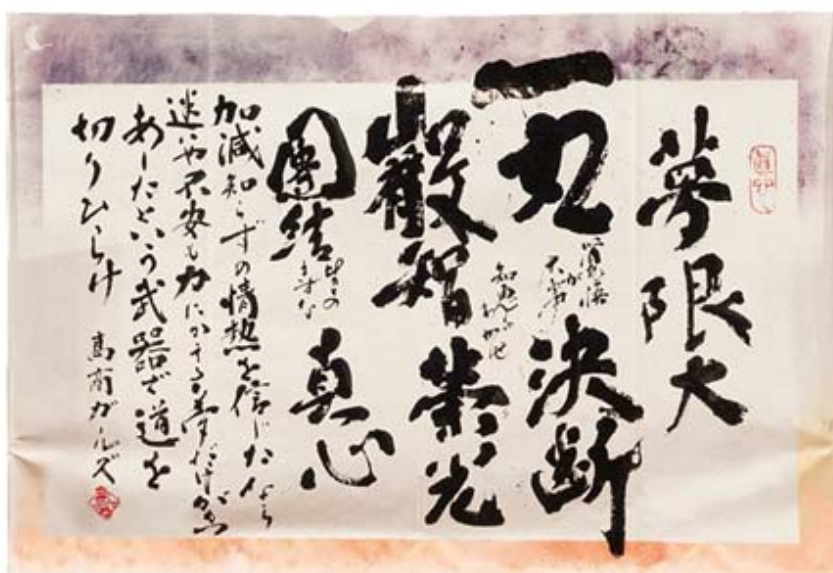
- 時代を先取りした ICT 情報や企業活用事例を質・量ともに豊富に提供
- LS 研を中心にしたイノベーションをもたらす研究・開発活動の実践
- グローバル人財の育成や、女性の活躍を支援する活動の推進

各種活動のさらなる活性化をはかるため、
従来の枠組を超えた企画の創出や体制の強化をはかる

- 本部と支部、支部同士の相互交流による、イノベーションを起こす、人的ネットワークの形成
- 会員の増強、行事への参加を積極的に推進
- 地域密着型行事や会員相互の研鑽・交流の促進
- ファミリー参加型の新たなメニュー作り

社会貢献活動に継続的に取り組み、社会的責任を果たす

- 東日本大震災や熊本地震への復興支援など、継続的な社会貢献活動を推進



香川県立高松商業高等学校
書道部
2015年度秋季大会
書道パフォーマンスより



2016年度 FUJITSUファミリー会論文

入賞論文表彰



論文表彰では、論文委員会の竹中委員長から、論文審査の経緯と結果についての報告に続き、下條ファミリー会会長より賞状と賞金の授与がありました。今回は11年ぶりに最優秀論文が選出されたこともあり、会場は大きな拍手に包まれました。ここでは、最優秀論文受賞者にお話を伺いました。



最優秀論文受賞者インタビュー

SEJ災害対策システム「セブンVIEW」の構築について



宮下 真希子 氏

株式会社セブン&アイ・ホールディングス
システム企画部 CVS 営業システム
店舗システム担当



新たな手法で構築された特命プロジェクトをテーマに

今回の論文テーマについて、開発プロジェクトと論文の責任者である西村出氏は語ります。

「災害時、社会のライフラインであるサプライチェーンを守ることは、当社の強い経営ポリシーです。したがって、全国5,200台の配送車の位置など、既存システムの様々な情報や気象・災害等外部情報をGoogle地図上に展開し、現場と本部の的確な判断を支援する『セブンVIEW』の構築は特命的なプロジェクトでした。そこで、同プロジェクトの意義や取り組みを発表する場としてファミリー会のような大きな団体で発表しようと考えました。

また、今回初めてシステムすべてをパブリッククラウド上で構築したことや、やはり初の手法としてアジャイル方式による開発に取り組んだことなど、システムに関わる方々にとっても参考になると思われる要素をいくつか含んでいたこともテーマ選定の理由になりました」。

書き手の想定を越えた業界、専門家にも伝えたい

論文はあくまで平易に、システムの専門知識なしに理解できるレベルで執筆されています。お二人はそこには一つの狙いがあったといいます。

「論文をまとめるにあたり、ある特定の分野・業界の方というよりも、むしろ、私どもが想像しないような業界の方々に広く読んでいただくことを意識しました」と語るのは、執筆を担当した宮下真希子氏。「『こんなシステムがあるなら、何か一緒にできるのではないか』という展開になればよいなという思いからです」。

「実は昨年夏、内閣府の後援で日刊工業新聞社殿が事務局となっている日本防災産業会議の設立に携わりました。その経験から、災害対策システムは一企業のみで資するのではなく、より多くの企業や機関の情報、システムと連携し、国全体の防災・減災につながるものでなければならぬという意識を強く持ちました。それが論文の底流になっています」(西村氏)。

論文に込められた思いと執筆の手法について、西村氏は続けます。「システムの専門家だけでなく、より広い分野の方々に伝わるように、専門用語は少なく、業界特有の表現も控えました」。



右から
最優秀論文
株式会社
セブン&アイ・ホールディングス
西村 出氏 宮下 真希子 氏
優秀論文
山崎製パン株式会社
松田 智恵子 氏
秀作論文
TDK 株式会社
成嶋 康一 氏

執筆を経て見えてきた 今後の展望

通常の業務と並行しながら、執筆の意義と取りまとめのエネルギーが求められる論文執筆。チャレンジする意味を次のように語ります。

「『セブンVIEW』は一つの完成を迎えるタイミングでしたので、論文化のプロセスでは必然的にシステム構築の背景そして目的を整理することになり、結果として今後の方向性が見えてきたのです。今、チームを組むベンダー様や官庁・自治体様などの話し合いや共同作業において確かな指針となっています」(西村氏)。

「論文は、このシステムをまったく知らない方にも容易に理解できる構成でなければなりません。システム構築の背景から目的までを順序立てて執筆していく過程で、セブン・イレブンのDNA、社会のインフラとしての店舗をどう守り、成長させていくべきかの考えが深まっていくのを感じました。そうした意味でも新人教育にも役立つと感じています。執筆は短期間に集中して進めたので、終盤では締め切りとの闘いとなりましたが、楽しさを覚えながら執筆できました」(宮下氏)。

執筆手引きを頼りに テーマは思い切り自由に

今後、論文執筆に挑戦しようとお考えの皆さんへ、一言お願いします。

「論文執筆は初めてでしたので、当初はどのように着手してよいかさえ、まったくわからない状態でした。しかし過去の入賞論文を読ませていただき、ファミリー会の論文サイト内に掲載されている『執筆の手引き』に沿って書き始めるとスムーズに書き進められました。こうした参考情報を活用して論文がある程度仕上がったらブラッシュアップです。私の場合、上長に意見をもらいながら完成へと持ち込みました」(宮下氏)。

また西村氏は、応募論文に対し、自由にテーマを選ぶべきといいます。「『セブンVIEW』は一部、富士通にとっては競争相手のシステムを使っているのですが、私どもとしては取り組みのディテールまであくまで正直に書き込んだわけです。ですから入賞、それも最優秀論文としての評価をいただき、たいへん驚くと同時に、評価選考委員のふところの深さを実感しました。自由闊達に、直球勝負で執筆に挑戦してください」。



西村 出氏

株式会社セブン&アイ・ホールディングス
システム企画部 CVS システム部 オフィサー



*最優秀論文をはじめとした入賞論文を含む一般論文の全文は、FUJITSUファミリー会ホームページにて閲覧できます。
<http://jp.fujitsu.com/family/article>

